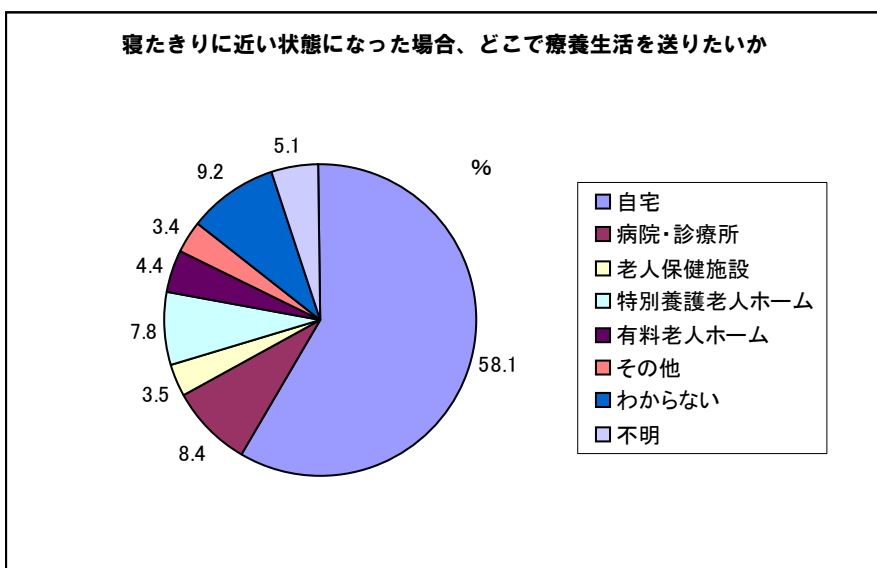


医療と福祉、介護等のスムーズな連携をめざして

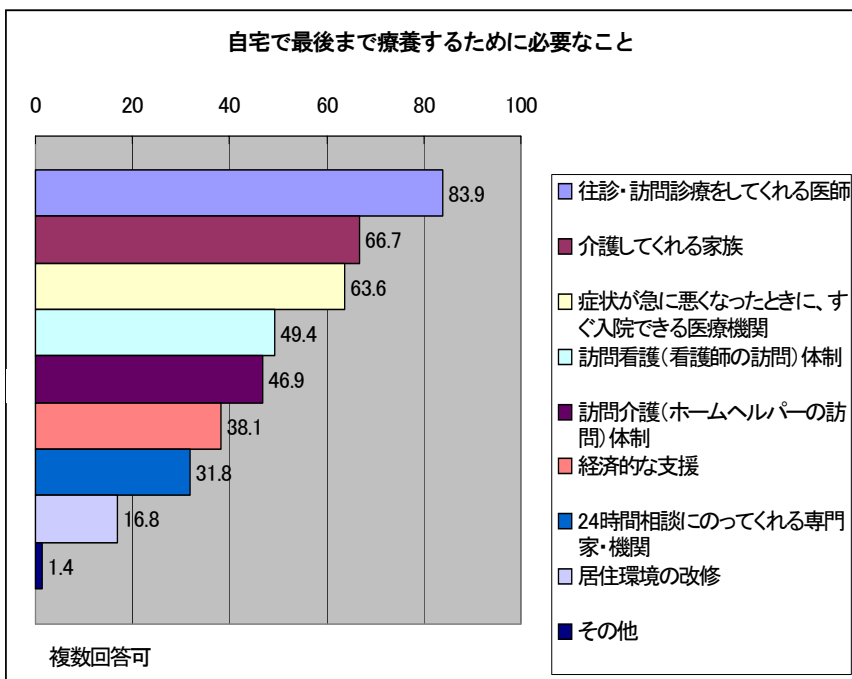
少子高齢化が進展する中、医療・福祉・介護を必要とする方が、今後ますます増加すると予想されます。そうした中、だれもができる限り住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるよう、地域全体で支える体制づくりが求められています。

そこで、桑名市では平成21年7月に設置した「桑名市地域医療対策連絡協議会」の下部組織として平成22年11月に「医療と福祉、介護等との連携部会」を立ち上げました。部会ではこれまでに2回の会議を開催し、桑名地域における医療・福祉・介護等の連携におけるさまざまな課題を抽出するとともに、その解決に向けた具体的方策に取り組んでいます。

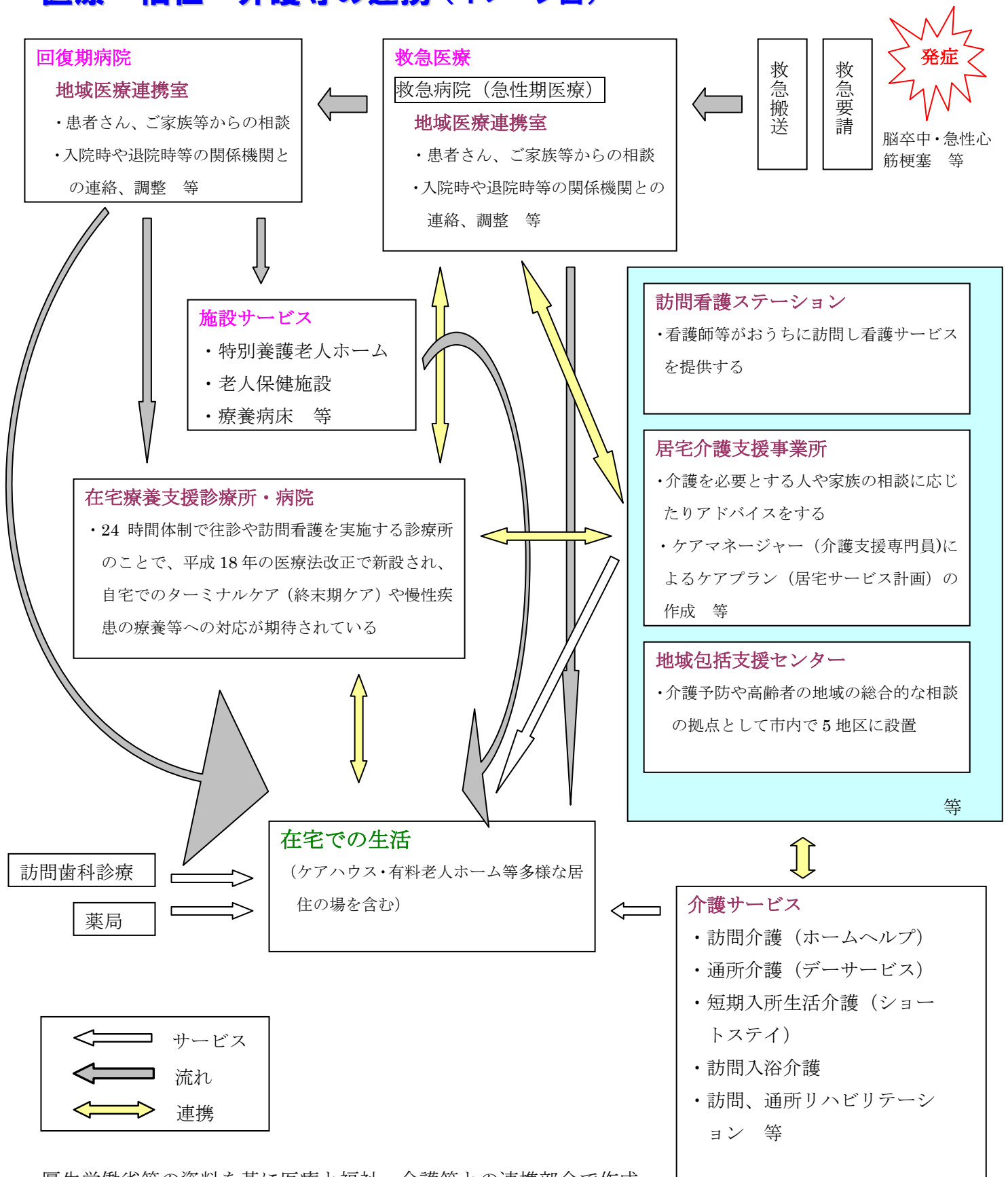
在宅医療に関する患者さんの意識



平成 21 年厚生労働省が在宅医療を受けている患者さんを対象に行なった調査によると、寝たきりに近い状態になった場合に自宅で療養したいと考えている方の割合は 58.1%と 6 割近い方が住みなれた自宅での療養を希望しています。また、自宅で最後まで療養するために必要なこととしては「往診・訪問診療をしてくれる医師」が 8 割以上、「介護してくれる家族」「症状が急に悪くなったときに、すぐ入院できる医療機関」が 6 割以上、「訪問看護（看護師の訪問）体制」「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）体制」の割合が半数近くとなっており、医療・福祉・介護に渡り必要性が求められており、スムーズな連携が不可欠となっています。



医療・福祉・介護等の連携（イメージ図）



厚生労働省等の資料を基に医療と福祉、介護等との連携部会で作成

（図は脳卒中・急性心筋梗塞等を発症された患者さんを例に理想的な医療、福祉、介護等の連携をイメージしたものであり、桑名市の現状を表しているものではありません。また全ての関係性を網羅しているものではありません。）

お問合せは、地域医療対策室（電話：24-0562）